

201128107B

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業

原因不明の慢性好酸球性肺炎の病態解明、新規治療法、
およびガイドライン作成に関する研究

平成22年度～23年度 総合研究報告書

研究代表者 谷口 正実

平成24(2012)年3月

目次

I-1. 総合研究報告書

原因不明の慢性好酸球性肺炎の病態解明、新規治療法、
およびガイドライン作成に関する研究

谷口正実 1

I-2. 分担研究報告書

1. 成人喘息の経過中に合併する原因不明の慢性好酸球性肺炎の
臨床像と年次推移

谷口正実 27

2. 日本人慢性好酸球性肺炎の臨床像

谷口正実 31

3. 原因不明の慢性好酸球性肺炎 33 例の長期予後に関する研究

谷口正実 35

4. 慢性好酸球性肺炎の予後指標として尿中ロイコトリエン E4 は
有用である

谷口正実 39

5. 好酸球活性化メディエーターを唾液で検出する試み

谷口正実 43

6. 慢性好酸球性肺炎における病態解析、システイニルロイコトリエン
の関与

谷口正実 45

7. 好酸球性肺炎の肺局所における新規好酸球性活性化メディ
エーター、eoxin C4 濃度

谷口正実 49

8. 好酸球増多に関連する遺伝子多型の検討	玉利真由美	53
9. 気道および全身における好酸球活性化のメカニズムの研究	森 晶夫	61
10. 慢性好酸球性肺炎の病態に関する基礎研究	長瀬隆英	87
11. 重症慢性好酸球性肺炎に対する新規治療法、抗 IgE 抗体療法の 試み	谷口正実	93
II-1. 研究成果の刊行に関する一覧表 平成 22 年度		97
II-2. 研究成果の刊行に関する一覧表 平成 23 年度		101

I - 1. 総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
総合研究報告書

原因不明の慢性好酸球性肺炎の病態解明、新規治療法、およびガイドライン作成に関する研究

研究代表者 谷口正実 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病態総合研究部 部長

研究要旨：

○目的：原因不明の慢性好酸球性肺炎（CEP）の病因病態、予後因子などは世界的にも明らかにされていない。また多数例の解析、予後も不明である。さらにステロイド以外の治療法も見出されていない。これらを解決するための研究を3年間行った。

○結果、考察：

【新規発症頻度・疫学】

- ・一般成人喘息患者前向き研究で1.5%に経過中にCEPが発症することが判明した。
- ・（高用量ICSの影響か）難治性喘息におけるCEP発症がここ10年で減少していることも明らかとなった。
- ・喘息合併の無い、または喘息の先行のないCEPの正確な発症頻度は未だ不明である。

【日本人CEP121例の臨床像】

- ・初めて多数例でのCEPの臨床像が明らかにされた。細菌性肺炎との簡易な鑑別方法が明らかとなり、さらに喫煙での発症抑制が確認された（投稿中）。

【予後】

- ・CEP33例を5年以上、平均7.5年前向きに経過観察した結果、生命予後は良いものの、90%が再燃し、そのほとんどが複数回再燃した。また21%で経過中CSS（Churg-Strauss 症候群）を発症した（投稿中）。

【予後因子、バイオマーカーの検索】

- ・CEPのバイオマーカーとして尿中ロイコトリエン濃度が病勢に応じて増加するだけでなく、著明高値例では、再燃やCSS発症が有意に多いことを見出した（投稿中）。
- ・抗炎症性メディエーターであるLXsの新規代謝産物を尿中で初めて同定し、その低下が好酸球性炎症の程度と相関することを見出した（CEA 2011）。
- ・また唾液検体も簡易かつ高濃度の好酸球性メディエーターが存在し、バイオマーカーとなる可能性を見出した（AI 2011）。

【ヒト CEP からの病因・病態解明】

- ・新規発症例 25 例での各種寄生虫や多種環境真菌の血清抗体価の有意な上昇なく、それらの関与は否定的であった。(投稿中)。
- ・U-LTE4 濃度が CEP の拡散能障害に強く影響しており、その機序として CysLT 2 受容体の関与が推定された。
- ・肺局所では、15HETE とエオキシシン C4 が肺好酸球性炎症に密接に関連していることを証明した (CEA 2010)。

【日本人 CEP における遺伝子多型の検索】

- ・末梢血好酸球数 10%以上の群と未満の群とで関連解析を行なったところ、VEGFR1, PPAR γ で有意な関連を認めた。また PPAR γ , rs3856806 の genotype は lymphoblastoid cell line における PPAR γ 発現量において、 $r=-0.276$, $p=0.016$ とリスクアレルで有意な相関 (発現増加) を認めた。CEP 検体が 100 例以上集積次第、これらの多型の関与検討予定。

【細胞、動物、KO モデルからの解析】

- ・好酸球性炎症には、活性化 T 細胞により産生される IL-5 の役割が重要であることが明らかになった。新たな治療介入をめざして、T 細胞移入喘息モデルを確立し、サイトカインの役割を詳細に解析した。Th クローン移入により、液性免疫の関与なしに、気道の好酸球性炎症および過敏性が誘導された。
- ・CysLT 2 受容体 KO マウスの作成と、炎症性肺疾患発症との関連を明らかにした。さらに新規転写コアクチベーター TAZ に着目し、炎症性肺疾患発症との関連を発生工学的手法を駆使して探索した。その結果、各々が、肺疾患病態に重要な役割を呈している可能性が示された。

【新規治療法の開発】

- ・新規治療として今回試みた抗 IgE 療法薬である Omalizumab が、原因不明の好酸球性肺炎の好酸球性炎症や臨床症状の著明な改善をもたらす可能性が初めて示された (投稿準備中)。

【過去の文献解析+診断治療の手引きの作成と公開】

- ・過去文献国内誌 183 主要論文、海外誌 251 主要論文 (総説を含む) を解析した。また今回の結果をふまえて、その要旨は教科書に掲載予定 (2012) であり、さらに HP に公開予定である。

○結論：多角的かつ国際的なレベルで、CEP の病態、予後、バイオマーカーを臨床的基礎的アプローチで解明しえた。また新規治療方法を提案できた。このうち、幾つかは世界初の成績も含まれており、CEP 医療に貢献できたと思われる。

研究分担者

■長瀬隆英

東京大学大学院医学系研究科
教授

■玉利真由美

独立行政法人理化学研究所
ゲノム医科学研究センター
呼吸器疾患研究チームチームリーダー

■森 晶夫

国立病院機構相模原病院
臨床研究センター
先端技術開発研究部
部長

A. 研究目的

【新規発症頻度・疫学】

- ・CEPの頻度は世界的に不明であるため、基礎データとして検討した。

【日本人 CEP 121例の臨床像】

- ・多数例での CEP の報告は皆無であり、その臨床像や背景などを明らかにするため検討した。

【予後】

- ・CEP 多数例を5年以上前向きに経過観察し、再燃率や経過中の CSS (Churg-Strauss 症候群) 発症率、再燃しやすい背景などを明らかにする。

【予後因子、バイオマーカーの検索】

- ・CEP のバイオマーカーを末梢血好酸球%だけでなく、脂質メディエーター、抗炎症

メディエーター (LXs)、さらに検体として唾液検体を用いて有用性を検討する。

【ヒト CEP からの病因・病態解明】

- ・CEP は未だ原因不明のため、各種寄生虫や多種環境真菌が発症に関与してしないかを血清抗体価から明らかにする。
- ・脂質メディエーター、特に CysLTs と CEP の病態の関連と CysLT 1 受容体拮抗薬の効果を明らかにする。
- ・肺局所の新規メディエーターである 15HETE とエオキシシン C4 の関与を証明する (CEA 2010)。

【日本人 CEP における遺伝子多型の検索】

- ・喘息での強い好酸球性炎症に関連すると予想される VEGFR1, PPAR γ 遺伝子多型を明らかにし、これらを CEP 候補遺伝子の検索とする。

【細胞、動物、KO モデルからの解析】

- ・新たな治療介入をめざして、T 細胞移入喘息モデルを確立し、サイトカインの役割を詳細に解析した。Th クローン移入により、液性免疫の関与なしでの気道の好酸球性炎症を明らかにする。
- ・CysLT 2 受容体 KO マウスの作成と、炎症性肺疾患発症との関連を明らかにした。さらに新規転写コアクチベーターTAZに着目し、炎症性肺疾患発症との関連を発生工学的手法を駆使して探索した。

【新規治療法の開発】

- ・CEP の有効な治療薬は経口ステロイドしかない現状で、新規治療として抗 IgE

療法薬である Omalizumab が、原因不明の好酸球性肺炎の好酸球性炎症や臨床症状の改善をもたらすかを明らかにする。

【過去の文献解析＋診断治療の手引きの作成と公開】

・過去文献国内誌 183 主要論文、海外誌 251 主要論文（総説を含む）を解析し、今回の結果をふまえて、その要旨は教科書に掲載し、さらに HP に公開する。

B. 研究方法

詳細は、「総合研究報告書」個別報告 I-2. 分担研究報告書 1~11 を参照のこと。

（倫理面への配慮）

倫理面の配慮として、患者を対象とする調査、検査において、また、ヒト由来の細胞、組織等の試料を用いる場合には、ヘルシンキ宣言を遵守するとともに、わが国のヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成 16 年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第 1 号）、疫学研究に関する倫理指針（平成 19 年文部科学省・厚生労働省告示第 1 号）、臨床研究に関する倫理指針（平成 20 年厚生労働省告示第 415 号）を遵守した。インフォームドコンセントを徹底するとともに、症例はコード化し、プライバシーの保護に万全を期した。実施に先立って研究者の施設における倫理委員会の承認を得たうえで、倫理規定に従って実施した。実験動物を使用する場合、厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針（平成 18 年 6 月 1 日付厚生労働省大臣官房厚生科学課長通知）及び研究者の施設に

おける動物実験に関する倫理規定を遵守した。実験間のばらつきを考慮した上で、統計学的有意性を議論する最小例数を算出し、その使用数を決定し、動物を保定、施術および致死させる場合は、最も苦痛を与えない方法を事前に検討した。

C. 研究結果, D. 考察, E. 結論

【新規発症頻度・疫学】

- ・一般成人喘息患者前向き研究で 1.5% に経過中に CEP が発症することが判明した。
- ・難治性喘息における CEP 発症がここ 10 年で減少していることも明らかとなった。
- ・喘息合併の無い、または喘息の先行のない CEP の正確な発症頻度は未だ不明である。

【日本人 CEP 121 例の臨床像】:

- ・初めて多数例での CEP の臨床像が明らかにされた。細菌性肺炎との簡易な鑑別方法が明らかとなり、さらに喫煙での発症抑制が確認された（投稿中）。

【予後】

- ・CEP33 例を 5 年以上、平均 7.5 年前向きに経過観察した結果、生命予後は良いものの、90% が再燃し、そのほとんどが複数回再燃した。また 21% で経過中 CSS (Churg-Strauss 症候群) を発症した（投稿中）。

【予後因子、バイオマーカーの検索】

- ・CEP のバイオマーカーとして尿中ロイコトリエン濃度が病勢に応じて増加するだけでなく、著明高値例では、再燃や CSS 発症が有意に多いことを見出した（投稿中）。

・抗炎症性メディエーターである LXs の新規代謝産物を尿中で初めて同定し、その低下が好酸球性炎症の程度と相関することを見出した (CEA 2011)。

・また唾液検体も簡易かつ高濃度の好酸球性メディエーターが存在し、バイオマーカーとなる可能性を見出した (AI 2011)。

【ヒト CEP からの病因・病態解明】

・新規発症例 25 例での各種寄生虫や多種環境真菌の血清抗体価の有意な上昇なく、それらの関与は否定的であった。(投稿中)。

・U-LTE4 濃度が CEP の拡散能障害に強く影響しており、その機序として CysLT2 受容体の関与が推定された。

・肺局所では、15HETE とエオキシシン C4 が肺好酸球性炎症に密接に関連していることを証明した (CEA 2010)。

【日本人 CEP における遺伝子多型の検索】

・末梢血好酸球数 10%以上の群と未満の群とで関連解析を行なったところ、VEGFR1, PPAR γ で有意な関連を認めた。また PPAR γ , rs3856806 の genotype は lymphoblastoid cell line における PPAR γ 発現量において、 $r=-0.276$, $p=0.016$ とリスクアレルで有意な相関(発現増加)を認めた。CEP 検体が 100 例以上集積次第、これらの多型の関与検討予定。

【細胞、動物、KO モデルからの解析】

・好酸球性炎症には、活性化 T 細胞により産生される IL-5 の役割が重要であることが明らかになった。新たな治療介入をめざして、T 細胞移入喘息モデルを確立し、サイトカイ

ンの役割を詳細に解析した。Th クローン移入により、液性免疫の関与なしに、気道の好酸球性炎症および過敏性が誘導された。

・CysLT2 受容体 KO マウスの作成と、炎症性肺疾患発症との関連を明らかにした。さらに新規転写コアクチベーターTAZに着目し、炎症性肺疾患発症との関連を発生工学的手法を駆使して探索した。その結果、各々が、肺疾患病態に重要な役割を呈している可能性が示された。

【新規治療法の開発】

・新規治療として今回試みた抗 IgE 療法薬である Omalizumab が、原因不明の好酸球性肺炎の好酸球性炎症や臨床症状の著明な改善をもたらす可能性が初めて示された(投稿準備中)。

【過去の文献解析+診断治療の手引きの作成と公開】

・過去文献国内誌 183 主要論文、海外誌 251 主要論文(総説を含む)を解析した。また今回の結果をふまえて、その要旨は教科書に掲載予定(2012)であり、さらに HP に公開予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Konno S, Hizawa N, Fukutomi Y, Taniguchi M, Kawagishi Y, Okada C,

Tanimoto Y, Takahashi K, Akasawa A, Akiyama K, Nishimura M: The prevalence of rhinitis and its association with smoking and obesity in a nationwide survey of Japanese adults. *Allergy in press*. 2012. / 原著 (欧文)

2) Fukutomi Y, Sjölander S, Nakazawa T, Magnus P Borres, Ishii T, Nakayama S, Tanaka A, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakamura H, and Akiyama K: Clinical relevance of IgE to rGly m 4 in diagnosis of adult soybean allergy. *J Allergy Clin Immunol* 2012 in press. / 原著 (欧文)

3) 谷口正実, 谷本英則, 関谷潔史: 好酸球性肺炎. 滝澤始 (編集) 間質性肺炎を究める. メディカルレビュー社 (東京), 2012. / 著書 (邦文)

4) 谷口正実, 福富友馬: アレルギーの各種検査と患者への説明方法. アレルギー診療ガイドライン. メディカルレビュー社 (東京), 2012. / 著書 (邦文)

5) Fukutomi Y, Itagaki Y, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K: Rhinoconjunctival sensitization to hydrolyzed wheat protein in facial soap can induce wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. *J Allergy Clin Immunol*. 127(2): 531-533.e1-3, 2011. / 原著 (欧文)
レター

6) Ono E, Taniguchi M, Higashi N, Mita H,

Yamaguchi H, Tatsuno S, Fukutomi Y, Tanimoto H, Sekiya K, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Otomo M, Maeda Y, Hasegawa M, Miyazaki E, Kumamoto T, Akiyama K: Increase in salivary cysteinyl-leukotriene concentration in patients with aspirin-intolerant asthma. *Allergol Int*. 60(1): 37-43, 2011. / 原著 (欧文)

7) Sekiya K, Watai K, Taniguchi M, Mitsui C, Fukutomi Y, Tanimoto H, Kawaura N, Akiyama K: Latex anaphylaxis caused by a Swan-Ganz catheter. *Intern Med*. 50(4): 355-7, 2011. / 原著 (欧文)

8) Fukutomi Y, Taniguchi M, Watanabe J, Nakamura H, Komase Y, Ohta K, Akasawa A, Nakagawa T, Miyamoto T, Akiyama K: Time Trend in the Prevalence of Adult Asthma in Japan: Findings from Population-Based Surveys in Fujieda City in 1985, 1999, and 2006. *Allergol Int*. 2011. / 原著 (欧文)

9) Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Tsuburai T, Mitsui C, Tanimoto H, Oshikata C, Tsurikisawa N, Hasegawa M, Akiyama K: Actual control state of intermittent asthma classified on the basis of subjective symptoms. *Intern Med*. 50(15): 1545-51, 2011. / 原著 (欧文)

10) Hirota T, Takahashi A, Kubo M, Tsunoda T, Tomita K, Doi S, Fujita K, Miyatake A, Enomoto T, Miyagawa T, Adachi M, Tanaka H, Niimi A, Matsumoto H, Ito I, Masuko H,

Sakamoto T, Hizawa N, Taniguchi M, Lima JJ, Irvin CG, Peters SP, Himes BE, Litonjua AA, Tantisira KG, Weiss ST, Kamatani N, Nakamura Y, Tamari M: Genome-wide association study identifies three new susceptibility loci for adult asthma in the Japanese population. *Nat Genet.* 43(9): 893-6, 2011. / 原著 (欧文)

11) Shirai T, Yasueda H, Saito A, Taniguchi M, Akiyama K, Tsuchiya T, Suda T, Chida K: Effect of Exposure and Sensitization to Indoor Allergens on Asthma Control Level. *Allergol Int.* 2011. / 原著 (欧文)

12) Yamaguchi H, Higashi N, Mita H, Ono E, Komase Y, Nakagawa T, Miyazawa T, Akiyama K and Taniguchi M: Urinary concentrations of 15-epimer of lipoxin A4 are lower in patients with aspirin-intolerant compared with aspirin-tolerant asthma. *Clinical & Experimental Allergy*: 1-8 (doi: 10.1111/j.1365-2222.2011.03839.x), 2011. / 原著 (欧文)

13) Fukutomi Y, Taniguchi M, Tsuburai T, Tanimoto H, Oshikata C, Ono E, Sekiya K, Higashi N, Mori A, Hasegawa M, Nakamura H and Akiyama K: Obesity and aspirin intolerance are risk factors for difficult-to-treat asthma in Japanese non-atopic women. *Clinical & Experimental Allergy*: 1-9 (doi: 10.1111/j.1365-2222.2011.03880.x), 2011. / 原著 (欧文)

14) Higashi N, Mita H, Yamaguchi H,

Fukutomi Y, Akiyama K, Taniguchi M: ARTICLE IN PRESS Letter to the Editor Urinary tetranor-PGDM concentrations in aspirin-intolerant asthma and anaphylaxis. *J ALLERGY CLIN IMMUNOL.* 2011. / 原著 (欧文) レター

15) Fukutomi Y, Kawakami Y, Taniguchi M, Saito A, Fukuda A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K: Allergenicity and cross-reactivity of booklice (*Liposcelis bostrichophila*): A common household insect pest in Japan. *International Archives of Allergy and Immunology.* 2011. / 原著 (欧文)

16) 中村陽一, 荒井康男, 笠原慶太, 金子猛, 工藤誠, 國分二三男, 駒瀬裕子, 高橋宏, 滝澤始, 谷口正実, 西川正憲, 蜂須賀久喜, 平居義裕, 三浦溥太郎, 秋山一男: 神奈川県における喘息患者の長期管理に関する実態調査(2009年度) 医師に対するアンケート調査. *アレルギー・免疫*(1344-6932)18(3): 410-416, 2011. / 原著 (邦文)

17) 駒瀬裕子, 荒井康男, 笠原慶太, 金子猛, 工藤誠, 國分二三男, 高橋宏, 滝澤始, 谷口正実, 中村陽一, 西川正憲, 蜂須賀久喜, 平居義裕, 三浦溥太郎, 秋山一男: 神奈川県における喘息患者の長期管理に関する実態調査(2009年度) 薬剤師に対するアンケート調査. *アレルギー・免疫*(1344-6932)18(3): 418-423, 2011. / 原著 (邦文)

18) 谷口正実, 東憲孝, 三田晴久: アスピリン喘息 (NSAIDs 過敏喘息) の病態とその治療戦

略を探る. 編集 大田健 ~抗体治療時代の~
気管支喘息治療の新たなストラテジー, 先端
医学社(東京), pp78-85, 2011./ 著書 (邦文)

19) 谷口正実: アスピリン喘息. 今日の診療サ
ポート. エルゼビア (東京), 2011./ 著書
(邦文)

20) 谷口正実: アスピリン喘息. 南山堂医学
大事典. 南山堂 (東京), 2011./ 著書 (邦文)

21) 谷口正実: 喘息反応. 南山堂医学大事典.
南山堂 (東京), 2011./ 著書 (邦文)

22) 谷口正実: アスピリン喘息. アレルギー・
リウマチ膠原病診療ガイドライン. 総合医学
社 (東京), 2011./ 著書 (邦文)

23) 谷口正実: Churg Strauss 症候群. アレル
ギー・リウマチ膠原病診療ガイドライン. 総合
医学社 (東京), 2011./ 著書 (邦文)

24) Taniguchi M, Ono E, Tsuburai T, Higashi
N, Mita H, Akiyama K.: Current research
for exhaled breath condensate in relation to
asthma and chronic obstructive pulmonary
disease. Proceeding of Airway Secretion
Research. Vol.XIII: 29-40, 2011. / 総説
(欧文)

25) 谷口正実, 東憲孝, 石井豊太, 三田晴久,
秋山一男: Review 2 好酸球性副鼻腔炎と喘息.
Allergy From the Nose to the Lung9(1): 8-13,
2011./ 総説 (邦文)

26) 谷本英則, 谷口正実:【アレルギー疾患の疫

学とナチュラル・ヒストリー】 アレルギー性
気管支肺アスペルギルス症(ABPA)とチャー
グ・ストラウス症候群(CSS). アレルギーの
臨床(0285-6379)31(2): 120-126, 2011. / 総説
(邦文)

27) 谷口正実, 東憲孝, 三井千尋, 福富友馬,
谷本英則, 関谷潔史, 秋山一男: 【気管支喘息
の病態、診断と治療;最近の進歩】 アスピリン
喘息(NSAIDs 過敏喘息)の病態と救急対応. 救
急医学(0385-8162)35(5): 562-566, 2011. /
総説 (邦文)

28) 谷口正実, 東 憲孝, 小野恵美子, 梶原
景一, 山口裕礼, 三田晴久, 秋山一男: テーマ
「気管支喘息治療の最前線」 1. 成人喘息に
おけるロイコトリエンの関与-NSAIDs 過敏
喘息も含めて-. 東京都医師会雑誌. 64(6):
13-20, 2011. / 総説 (邦文)

29) 谷口正実: 特集 妊娠と薬物療法 合併症
妊婦への対応 気管支喘息. 月刊薬事. 53(8):
55(1103)-60(1108), 2011. / 総説 (邦文)

30) 谷口正実, 関谷潔史, 福富友馬, 美濃口
健治, 粒来崇博, 高橋健太郎, 三井千尋, 谷本
英則: 特集 気管支喘息包囲網-喘息死ゼロへ
向けた最後の 10 年へ <<気管支喘息治療中の
問題となる点と対策>>妊娠と喘息. 内科.
108(3): 445-450, 2011. / 総説 (邦文)

31) 谷口正実: 成人喘息における薬物療法
ICS を基軸とした 3 種の併用薬の使用法.
CLINIC magazine. 506: 30-34, 2011. / 総説
(邦文)

- 32) 谷口正実: 今月のことば 413 臨床の現場から, 世界へ情報発信する. アレルギーの臨床. 31(11): 13, 2011. / 総説 (邦文)
- 33) 谷口正実: 研究の周辺から 難治性病態を臨床現場から追求する. 呼吸. 30(10): 851-852, 2011. / 総説 (邦文)
- 34) 秋山一男, 檜澤伸之, 谷口正実: 座談会 成人喘息の多様性と重症喘息の治療戦略 - 患者の分類、分子標的治療の現況、抗 IgE 抗体療法のアウトライン-. IgE practice in asthma. 13: 2011. / 総説 (邦文)
- 35) 谷口正実, 東憲孝, 小野恵美子, 山口裕礼, 三井千尋, 梶原景一, 三田晴久, 秋山一男: <アレルギー疾患の病態>脂質メディエーターの新展開-炎症性メディエーターと抗炎症性メディエーター-. 小児内科. 43(11): 1834-1838, 2011. / 総説 (邦文)
- 36) 谷口正実: Churg Strauss 症候群. 呼吸と循環, 2011. (印刷中) / 総説 (邦文)
- 37) 福富友馬, 谷口正実, 赤澤 晃, 秋山一男: 喘息の疫学分析, 診療ガイドラインの普及と患者 QOL 本邦成人喘息の有病率と危険因子: 2006 年全国成人喘息有病率調査からの知見. IgE practice in asthma. 13: 21-24, 2011. / 総説 (邦文)
- 38) Fukutomi Y, Nakamura H, Kobayashi F, Taniguchi M, Konno S, Nishimura M, Kawagishi Y, Watanabe J, Komase Y, Akamatsu Y, Okada C, Tanimoto Y, Takahashi K, Kimura T, Eboshida A, Hirota R, Ikei J, Odajima H, Nakagawa T, Akasawa A, Akiyama K: Nationwide cross-sectional population-based study on the prevalences of asthma and asthma symptoms among Japanese adults. Int Arch Allergy Immunol. 153(3): 280-7, 2010. / 原著 (欧文)
- 39) Higashi N, Mita H, Ono E, Fukutomi Y, Yamaguchi H, Kajiwara K, Tanimoto H, Sekiya K, Akiyama K, Taniguchi M: Profile of eicosanoid generation in aspirin-intolerant asthma and anaphylaxis assessed by new biomarkers. J Allergy Clin Immunol. 125(5): 1084-1091, 2010. / 原著 (欧文)
- 40) Ono E, Taniguchi M, Higashi N, Mita H, Kajiwara K, Yamaguchi H, Tatsuno S, Fukutomi Y, Tanimoto H, Sekiya K, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Otomo M, Maeda Y, Hasegawa M, Miyazaki E, Kumamoto T, Akiyama K: CD203c expression on human basophils is associated with asthma exacerbation. J Allergy Clin Immunol. 125(2): 483-489.e3, 2010. / 原著 (欧文)
- 41) 福富友馬, 谷口正実, 粒来崇博, 岡田千春, 下田照文, 尾仲章男, 坂英雄, 定金敦子, 中村好一, 秋山一男: 本邦における病院通院成人喘息患者の実態調査 国立病院機構ネットワーク共同研究. アレルギー (0021-4884)59(1): 37-46, 2010. / 原著 (邦文)
- 42) 高橋歩, 今野哲, 伊佐田朗, 服部健史, 清水薫子, 清水健一, 谷口菜津子, 高橋大輔, 谷口正実, 赤澤晃, 檜澤伸之, 西村正治: 気管

支喘息及び鼻炎における血清総 IgE 値及び末梢血好酸球数の検討. アレルギー (0021-4884)59(5): 536-544, 2010. / 原著 (邦文)

43) 押方智也子, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 谷口正実, 秋山一男: 呼気一酸化窒素濃度の気管支喘息診断カットオフ値への喫煙およびアトピー素因の影響. 日本呼吸器学会雑誌 (1343-3490)48(7): 539-540, 2010. / 原著 (邦文)

44) 粒来崇博, 釣木澤尚実, 東憲孝, 龍野清香, 福富友馬, 谷本英則, 関谷潔史, 押方智也子, 大友守, 前田裕二, 谷口正実, 池原邦彦, 秋山一男: 成人気管支喘息患者における簡便な呼気中一酸化窒素濃度(FeNO:the fraction of exhaled nitric oxide)測定法 オフライン法 2 法と NIOXmino の比較. アレルギー (0021-4884)59(8): 956-964, 2010. / 原著 (邦文)

45) 谷口正実: 薬物過敏症 drug hypersensitivity. 総編集 山口徹 他 今日の治療指針 私はこう治療している, 医学書院(東京), pp713-715, 2010. / 著書 (邦文)

46) 谷口正実, 東憲孝, 三田晴久, 秋山一男: 第 1 章アレルギー性疾患②アスピリン喘息. 編集: 永倉俊和, 森田寛, 足立満 アレルギー疾患イラストレイテッド第 2 版, メディカルレビュー社(東京), pp28-35, 2010. / 著書 (邦文)

47) 谷口正実: 第 3 章喘息の診断はどうする? -喘息に合併してくる病気と似ている病気 NSAIDs 過敏喘息 (アスピリン喘息) 診療のコ

ツは? 長坂行雄(編集) いきなり名医! その咳と喘鳴、本当に喘息ですか?, 日本医事新報社(東京), pp38-44, 2010. / 著書 (邦文)

48) 谷口正実, 福富友馬, 秋山一男: 2.成人喘息の長期予後, 治癒の可能性. 編集: 秋山一男, 森川昭廣, 足立満, 大田健, 東田有智 2010 年における気管支喘息のすべて The 30th ROKKO CONFERENCE, ライフサイエンス出版(東京), pp155-163, 2010. / 著書 (邦文)

49) 谷口正実, 下田照文, 中村陽一, 白井敏博: 【増加するアレルギー疾患 内科医にとっての最良のアプローチとは】 軽症喘息の長期管理はどうあるべきか. 内科(0022-1961)105(4): 665-676, 2010. / 総説 (邦文)

50) 関谷潔史, 谷口正実, 秋山一男: アレルギー検査法 検査の実際 in vivo 呼吸器検査 吸入誘発試験. アレルギー・免疫 (1344-6932)17(3): 470-476, 2010. / 総説 (邦文)

51) 谷口正実, 東憲孝, 石井豊太, 三田晴久, 山本一博, 秋山一男: 病診・診診連携 アスピリン喘息における副鼻腔術後の変化 -耳鼻咽喉科と内科連携, 内科医からのメッセージ. 鼻アレルギーフロンティア 10(1): 46-49, 2010. / 総説 (邦文)

52) 谷口正実, 東憲孝, 三田晴久, 秋山一男: 解説 アスピリン喘息 (NSAIDs 過敏喘息) の病態と治療管理. 呼吸器内科 18 (5) :473-478, 2010. / 総説 (邦文)

- 53) 谷口正実: 特集 増加するアレルギー疾患—内科医にとっての最良のアプローチとは <Editorial>増加するアレルギー疾患—変化する臨床像. 内科 Vol. 105 No.4:556-558, 2010. / 総説 (邦文)
- 54) 谷口正実, 東憲孝, 小野恵美子, 福富友馬, 谷本英則, 関谷潔史, 山口裕礼, 三田晴久, 秋山一男: 【気管支喘息のフェノタイプについて】 トリガーとなる因子から 喘息フェノタイプとしてみたアスピリン喘息(NSAIDs 過敏喘息). 喘息(0914-7683)23(2): 173-178, 2010. / 総説 (邦文)
- 55) 谷口正実, 小野恵美子, 粒来崇博, 東憲孝, 三田晴久, 秋山一男: 【喘息と COPD の接点を探る】 喘息と COPD の類似点と相違点 呼気凝縮液 (EBC) から. 呼吸器内科 (1884-2887)18(3): 206-212, 2010. / 総説 (邦文)
- 56) 谷口正実: 専門医のためのアレルギー学講座 アレルギー・免疫疾患の新規治療薬と治療法 Churg-Strauss Syndrome(アレルギー性肉芽腫性血管炎)の最近の治療 免疫グロブリン大量療法を含めて. アレルギー(0021-4884)59(8): 923-930, 2010. / 総説 (邦文)
- 57) 谷口正実, 東憲孝, 小野恵美子, 梶原景一, 山口裕礼, 三田晴久, 秋山一男: ロイコトリエン、リポキシン ヒトアレルギー・炎症病態とのかかわり. 臨床免疫・アレルギー科(1881-1930)54(2): 263-270, 2010. / 総説 (邦文)
- 58) 関谷潔史, 谷口正実: 【喘息の急性発作の治療】 喘息急性増悪の疫学. アレルギーの臨床(0285-6379)30(10): 876-880, 2010. / 総説 (邦文)
- 59) 谷口正実, 東憲孝, 小野恵美子, 三田晴久, 秋山一男: 【喘息発作を抑え込む】 喘息発作の治療 薬剤誘発喘息 特に NSAIDs 過敏喘息について. Mebio(0910-0474)27(9): 72-78, 2010. / 総説 (邦文)
- 60) 竹内保雄, 谷口正実, 安枝浩: 【アレルギー解析の最前線 コンポーネント解析】 アレルギー疾患におけるアスペルギルスのアレルギー解析. アレルギーの臨床(0285-6379)30(7): 619-623, 2010. / 総説 (邦文)
- 61) 谷口正実: 【内科疾患の診断基準 病型分類・重症度】 呼吸器 気管支喘息. 内科(0022-1961)105(6): 943-947, 2010. / 総説 (邦文)
- 62) 谷口正実, 龍野清香, 福富友馬, 谷本英則, 関谷潔史, 粒来崇博, 小野恵美子, 東憲孝, 前田裕二, 安枝浩, 石井豊太, 長谷川真紀, 秋山一男: 【One airway、one disease】 アレルギー感作からみた One airway、one disease. 喘息(0914-7683)23(1): 25-32, 2010. / 総説 (邦文)
- 63) 粒来崇博, 釣木澤尚実, 龍野清香, 福富友馬, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 前田裕二, 大友守, 谷口正実, 秋山一男: 成人気管支喘息患者における FeNO 測定法 オフライン法と NIOXmino の比較. 呼吸(0286-9314)29(8): 840, 2010. / 総説 (邦文)

64) 福富友馬, 谷口正実, 東憲孝, 石井豊太, 龍野清香, 谷本英則, 押方智也子, 小野恵美子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 中澤卓也, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 成人喘息患者における持続的気流閉塞臨床的見地から. 呼吸(0286-9314)29(5) : 535-537, 2010. / 総説 (邦文)

65) 福富友馬, 板垣康治, 谷口正実, 齋藤明美, 安枝浩, 中澤卓也, 長谷川眞紀, 秋山一男: 洗顔石鹼中の加水分解小麦に対する接触性感作が原因となり発症した経口小麦アナフィラキシーの 5 例. アレルギーの臨床(0285-6379)30(14): 1298-1299, 2010. / 総説 (邦文)

2. 学会発表

1) 谷口正実: 教育講演 喘息・アレルギー疾患に対する抗原特異的免疫療法の有用性. The 21st Congress of Interasma Japan / North Asia, 岐阜県, 2011./ 国際学会 (講演)

2) 谷口正実: クリニカルレクチャー4 Churg Strauss 症候群. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (講演)

3) 谷口正実: 基調講演 2 成人喘息からみた One Airway, One Disease、特に好酸球性鼻副鼻腔炎と喘息について. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (講演)

4) Taniguchi M: Late-breaking abstracts presented at scientific sessions L3 Effect Of Intravenous Immunoglobulin On Steroid-resistant Peripheral Neuropathy In Patients

With Churg-Strauss Syndrome : A Double-blind, Placebo-controlled, Randomized Multice. AAAAI ANNUAL MEETING 2011, San Francisco, USA, 2011. / 国際学会 (シンポジウム)

5) 谷口正実: JP1-4 「日本耳鼻咽喉科学会と共同企画」成人喘息からみた One Airway, One Disease、特に好酸球性鼻副鼻腔炎と喘息について. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

6) 釣木澤尚実, 押方智也子, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 関谷潔史, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 齋藤博士, 秋山一男: PS59 気管支喘息 成人喘息の治療薬の Step down の指標に対する検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ポスターシンポジウム)

7) 釣木澤尚実, 押方智也子, 齋藤博士, 粒来崇博, 谷本英則, 関谷潔史, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 菅野聡, 玉真俊平, 下田拓也, 佐藤文, 堀田綾子, 齋藤生朗, 秋山一男: MS4-3 自己免疫疾患 Churg-Strauss 症候群(CSS)の難治性好酸球性大腸炎に対する IVIG 療法の可能性. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

8) 美濃口健治, 谷口正実, 秋山一男: S9-2 睡眠時無呼吸症候群. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

9) 美濃口健治, 谷口正実, 秋山一男: S17-2 成人喘息における免疫療法. 第 61 回日本アレ

ルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

10) 谷口正実, 福富友馬, 秋山一男: EVS1-2 日本人成人喘息における最新の疫学. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

11) 谷口正実, 福富友馬, 関谷潔史, 谷本英則, 三井千尋, 粒来崇博, 美濃口健治, 秋山一男: EVS6-1 重症喘息の背景因子. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

12) 釣木澤尚実, 齋藤博士, 押方智也子, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 高橋健太郎, 関谷潔史, 美濃口健治, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 秋山一男: MS4-6 Churg-Strauss 症候群の再燃, 難治化に対する TLR4 の発現と B 細胞の分化誘導異常の関与. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

13) 福富友馬, 千貫祐子, 森田栄伸, 高橋健太郎, 谷口正実, 秋山一男: MS7-3 茶のしづく関連経口小麦アレルギー症状における石鹼使用中止後の小麦タンパク特異的 IgE 抗体価の経年的変化. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

14) 釣木澤尚実, 押方智也子, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 高橋健太郎, 関谷潔史, 美濃口健治, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 齋藤博士, 秋山一男: MS8-4 成人喘息の臨床的寛解の基準に対する検討. 第 61 回日本アレ

ルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

15) 粒来崇博, 三田晴久, 東憲孝, 谷口正実, 釣木澤尚実, 三井千尋, 福富友馬, 谷本英則, 高橋健太郎, 押方智也子, 関谷潔史, 美濃口健治, 前田裕二, 大友守, 秋山一男: MS8-5 成人気管支喘息における呼気凝縮液(EBC)中の indoleamine-2, 3-dioxygenase(IDO)活性. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

16) 高橋健太郎, 廣瀬晃一, 川島沙紀, 丹羽祐輔, 若新英史, 若田有史, 小林芳久, 常世田幸司, 中山俊憲, 谷口正実, 秋山一男: MS10-3 IL22 は気道上皮細胞による IL-25 産生を抑制し, アレルギー性気道炎症を抑制する. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

17) 粒来崇博, 釣木澤尚実, 三井千尋, 東憲孝, 福富友馬, 谷本英則, 押方智也子, 高橋健太郎, 関谷潔史, 美濃口健治, 大友守, 前田裕二, 谷口正実, 秋山一男: MS13-6 治療により安定した成人気管支喘息患者におけるモストグラフを用いた気流制限の評価. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

18) 佐藤さくら, 海老澤元宏, 宇都宮朋宏, 今井孝成, 三田晴久, 梶原景一, 谷口正実, 秋山一男, 東憲孝: MS22-6 急速経口免疫療法の減感作のメカニズムと尿中ロイコトリエンの産生. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (ミニシンポジウム)

19) Fukutomi Y, Itagaki Y, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K: Rhinconjunctival sensitization to hydrolyzed wheat protein in facial soap can induce wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. Food allergy and anaphylaxis meeting, Venice, Italy, 2011. / 国際学会 (一般演題)

20) Fukutomi Y, Sjölander S, Borres M, Nakazawa T, Ishii T, Nakayama S, Tanaka A, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakamura H, Akiyama K: Soybean allergy in a population with a low prevalence of betulaceae pollen allergy and a high soybean consumption. Food allergy and anaphylaxis meeting 2011, Venice, Italy 2011. / 国際学会 (一般演題)

21) Fukutomi Y, Taniguchi M, Nakayama S, Tanaka A, Saito A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K: Sensitization to Profilin in Japanese Patients with Pollen-Food Allergy Syndrome: Its Source of Sensitization and Clinical Relevance. American Academy of Allergy, Asthma and Immunology 2011 / 67th Annual Meeting 2011, San Francisco, USA, 2011. / 国際学会 (一般演題)

22) Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Mitsui C, Tanimoto H, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Hasegawa M, Akiyama K: Age-specific background in inpatients with severe asthma exacerbation. The 21th

Congress of INTERASMA Japan/North Asia, Gifu, Japan, 2011. / 国際学会 (一般演題)

23) Fukutomi Y, Taniguchi M, Akasawa A, Akiyama K: Association between asthma symptoms and severity of allergic rhinitis determined on the basis of ARIA classification. The 21th Congress of INTERASMA Japan/North Asia, Gifu, Japan, 2011. / 国際学会 (一般演題)

24) Mitsui C, Taniguchi M, Higashi N, Ono E, Kajiwara K, Fukutomi Y, Tanimoto H, Oshikata C, Sekiya K, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Ishii T, Mori A, Mita H, Hasegawa M, Akiyama K: Risk factors and characteristics associated with uncontrolled severe asthma in patients with aspirin-exacerbated respiratory disease. 2011 EAACI Congress, Istanbul, Turkey, 2011. / 国際学会 (一般演題)

25) Sekiya K, Taniguchi M, Tanimoto H, Akiyama K: Age-specific background in inpatients with severe asthma exacerbation. European Respiratory Society Annual Congress Amsterdam 2011, Amsterdam, Netherland, 2011. / 国際学会 (一般演題)

26) 東憲孝, 山口裕礼, 山口知子, 石井豊太, 梶原景一, 三田晴久, 谷口正実, 秋山一男: PP208 アスピリン喘息(AIA)の鼻茸・副鼻腔組織におけるアラキドン酸(AA)代謝産物の検討. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)

- 27) 三井千尋, 谷口正実, 東憲孝, 小野恵美子, 梶原景一, 福富友馬, 粒来崇博, 関谷潔史, 谷本英則, 石井豊太, 森晶夫, 三田晴久, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP211 NSAIDs 過敏喘息の難治化と CysLTs 過剰産生. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 28) 押方智也子, 釣木澤尚実, 齋藤明美, 中澤卓也, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 福富友馬, 関谷潔史, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 安枝浩, 秋山一男: PP213 環境中ダニアレルゲン量はアトピー型成人気管支喘息患者の臨床症状を反映する. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 29) 福富友馬, 川上裕司, 谷口正実, 齋藤明美, 福田安住, 安枝浩, 中澤卓也, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP215 アレルギー性喘息における昆虫アレルゲン感作 室内塵中に最も普遍的に認められる微小昆虫・ヒラタチャタテの抗原性. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 30) 釣木澤尚実, 齋藤博士, 押方智也子, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 関谷潔史, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 秋山一男: PP377 Churg-Strauss 症候群の臨床的寛解・再燃を反映する因子の検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 31) 谷本英則, 谷口正実, 三井千尋, 武市清香, 福富友馬, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP710 オマリズマブが有効であったアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) の 1 例. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 32) 粒来崇博, 三井千尋, 福富友馬, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 前田裕二, 大友守, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP881 当院における気道過敏性検査とモストグラフ、FENO の関連. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 33) 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 大友守, 森晶夫, 前田裕二, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP886 喘息大発作症例の臨床的検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 34) 福富友馬, 谷口正実, 今野哲, 西村正治, 大矢幸弘, 吉田幸一, 岡田千春, 高橋清, 中村裕之, 秋山一男, 赤澤晃: PP891 インターネット調査による本邦の喘息の ecological study 有病率の地域差とその規定因子. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 35) 押方智也子, 釣木澤尚実, 齋藤博士, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 関谷潔史, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 堀口順子, 森田有紀子, 堀田綾子, 齋藤生朗, 秋山一男: P1-05-6 たこつぼ心筋症を呈した Churg-Strauss 症候群の一例. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (一般演題)

- 36) 三井千尋, 谷口正実, 福富友馬, 谷本英則, 東憲孝, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: P1-09-5 アスピリン喘息における持続的気流制限の検討. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 37) 谷本英則, 谷口正実, 竹内保雄, 三井千尋, 武市清香, 福富友馬, 関谷潔史, 押方智也子, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 齋藤明美, 中澤卓也, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: P1-15-1 アレルギー性気管支肺アスペルギルス症(ABPA)において、発症年齢による臨床的な違いはあるのか. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 38) 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 福富友馬, 谷本英則, 押方智也子, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: P2-11-2 喘息大発作症例の臨床的検討. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 39) 押方智也子, 釣木澤尚実, 齋藤博士, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 高橋健太郎, 関谷潔史, 美濃口健治, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: O1-2 アレルギー性気管支肺真菌症と真菌感作喘息の病態における Th17 細胞の意義に関する検討. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 40) 福富友馬, 中村浩之, 谷口正実, 千貫祐子, 森田栄伸, 岸川禮子, 西間三馨, 秋山一男: O2-4 加水分解小麦を含有する石鹼・シャンプーその他の化粧品の使用と成人小麦アレルギーとの疫学的な関係. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 41) 中澤卓也, 森田裕司, 齋藤明美, 安枝浩, 三井千尋, 高橋健太郎, 関谷潔史, 谷本英則, 福富友馬, 釣木澤尚実, 押方智也子, 粒来崇博, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 石井豊太, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男: O3-4 セツキシマブに対する IgE 抗体とマダニ咬傷 第 2 報. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 42) 飛鳥井洋子, 粒来崇博, 美濃口健治, 谷口正実, 秋山一男: O35-2 オフライン法を用いた呼気一酸化窒素濃度(FeNO)測定—かかりつけ医における喘息診療と FeNO の変化—. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 43) 押方智也子, 釣木澤尚実, 齋藤明美, 中澤卓也, 粒来崇博, 三井千尋, 谷本英則, 高橋健太郎, 関谷潔史, 美濃口健治, 谷口正実, 大友守, 前田裕二, 安枝浩, 秋山一男: O37-7 環境中ダニアレルゲン回避は成人喘息患者の臨床症状を改善する. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (一般演題)
- 44) 東憲孝, 三田晴久, 山口裕礼, 石井豊太, 梶原景一, 谷口正実, 秋山一男: O40-1 アスピリン喘息(AIA)の鼻茸・副鼻腔組織におけるアラキドン酸(AA)代謝産物の検討. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. /